

はじめに

小田原は、首都圏の西端にあって東京への交通アクセスが優れた立地に、箱根外輪山や久野・曾我の丘陵地帯、市中央部を流れる酒匂川、相模湾といった豊かな自然を有する、大変住みよい地域です。かつて先人たちが暮らし、生活の礎としたこの自然環境をよりよい形で次世代へ残していくことは、今に生きる私たちの責務であると考えています。

しかしながら、地球温暖化をはじめ、人口減少や高齢化の進行による担い手の減少、山林の荒廃や耕作放棄地の増加、外来生物の侵入による固有種の絶滅と生態系への影響など、現代のわが国に取り巻く環境問題は、次第に深刻さを増しているように感じています。

こうした中、本市では、「おだわら TRY プラン（第5次小田原市総合計画）」の後期基本計画を平成29年度よりスタートしました。総合計画の策定から6年が経過し、その間の東日本大震災の発生や社会経済環境の変化を踏まえ、9つの重点テーマを掲げました。現代社会が抱える諸課題を乗り越えつつ、その先にある持続可能な地域社会を実現するためには、すべての営みのベースに命を支える健やかな自然環境が不可欠であるとの考えのもと、「豊かな自然や環境の保全・充実」をテーマの筆頭に位置づけています。

昨今、環境問題に関する世界的な方向性としては、環境施策を通じた経済及び社会の課題の同時解決により、社会全体の好循環を生むようなアプローチが求められています。平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は持続可能な開発目標（SDGs）を中核とする国際目標ですが、この中にも、環境関連の事項が多数組み込まれています。我が国でも今後あらゆる施策にSDGsの視点を含め、これまでの概念にとらわれず、経済・社会・環境のあらゆる面でイノベーションを創出し、持続可能な社会の実現に繋げていくことが重要です。

これらを踏まえ、このたび、平成23年度に策定した「第2次小田原市環境基本計画」の中間的な見直しを実施いたしました。本計画では、「良好な環境を守り育て 豊かな水と緑あふれる持続的な環境共生都市 小田原」の実現を目指しており、多様な主体との連携による環境活動の展開を加速し、「森里川海オールインワンのエコシティ・小田原」としての都市ブランドの確立・強化に向けた事業を新たに位置づけました。

森里川海がひとつらなりの類まれな自然環境をもつ本市は、その恩恵を享受することで地場産業や城下町としての長い歴史・地域文化を生み出し、人々の生活となりわいを発展させてきました。これまで培ってきた様々な取組をしっかりと守り育て、美しく豊かな自然環境を引き継いでいくことで、持続可能な地域社会のモデルを形作ってまいります。

さらに、今回の改訂では、低炭素社会の構築と地球温暖化対策の取組、循環型社会の形成に向けたさらなる構想、自然環境の保全と再生に向けた事業、地域や海岸の美化活動の強化などを盛り込んでおり、これらは、市民・事業者・行政のパートナーシップなくして実現はできません。より一層の連携と協働を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成29年12月

小田原市長

加藤 憲一

